

2024年11月18日

報道関係者各位

京都橘大学
株式会社デジタル・ナレッジ

一般財団法人 中央アジア高等教育奨学金財団の設立について ー中央アジアにおける IT 時代を牽引する人材の育成にむけてー

京都橘大学（京都市山科区、学長：日比野英子）と株式会社デジタル・ナレッジ（東京都台東区、代表取締役社長：はが弘明）は、中央アジアにおける高等教育の発展と、社会・文化の向上発展に寄与するため、「一般財団法人 中央アジア高等教育奨学金財団」を2024年9月18日（水）設立しました。

本法人では、国際社会で活躍できる有為な人材の育成を目的として、学習意欲に溢れる中央アジアからの留学生に対し、経済的支援ならびにキャリア支援を行うことを基本理念として掲げています。

現代社会は、経済、人口、少子高齢化、環境、貧困、エネルギーなど一国で解決することが困難な新しい質を伴った問題が複雑に絡み合っています。これらの課題に取り組むとき、中央アジアと日本が市民レベルでの交流を行いながら、協働して解決への道を探ることは、国際社会においても重要な役割を果たすと考えています。このためには、単に留学生の受入れや海外への派遣に留まらず、新しい教育手法を取り入れながら、海外の大学とこれまで以上に連携し、共同で人材を育成するための新しいプログラムが必要であると考えています。

本法人は、中央アジアにおける留学生の就学・就労支援を通して、アジアの時代といわれる21世紀の世界を牽引する人材の育成に寄与していきたいと考えています。

本法人の設立の背景・目的、概要、基本方針、事業計画等は、下記のとおりです。

1. 設立の背景・目的

京都橘大学は、株式会社デジタル・ナレッジが出資するウズベキスタンの正規大学である Japan Digital University（所在地：タシュケント 2020年設置。以下、JDU）からの学生を2023年4月より総合心理学部通信教育課程において受け入れており、現在64名の学生が学んでいます。

ウズベキスタンは、人口約3,280万人のうち、24歳以下が約40%を占めています。生徒数の増加に教育の環境整備が追いついておらず、教員や教材の不足、地域やジェンダーによる教育格差などの課題を抱えています。この課題を解決するため、JDUは、同国内での大学不足を解消しながら段階的に学生数を増加させ、日本における就職を目的として、日本の大学と通信教育によるデュアルディグリー制度を設けています。2024年4月時点で日本の5大学が教育プログラムの提供をしており、本学も2023年度より通信教育課程の総合心理学部にて受け入れを開始しています。

連携にあたっては、JDUの学生のニーズに合うようなカリキュラムの提供や日本語能力等の学習支援と共に、ウズベキスタンと日本の経済格差に対応するため、学費減免などの経済的支援の仕組みを検討してきました。

今回の法人設立は、留学生の経済負担を少しでも軽減し、ウズベキスタンをはじめ、中央アジア各国との連携を強固にしながら、世界を牽引する有為な人材の育成を目的としています。特に、IT時代に多文化を尊重しあいながら、リーダーシップを発揮して、新しい社会価値を創造できる人材の育成は世界から求められています。情報分野では世界に遅れをとっている日本ではありますが、モノづくり技術の強みを生かし、日本での就労経験をもって、アジアから世界へ新しい技術を開発・発信する高度情報専門人材を輩出していきたいと考えています。以上より、本法人を設立し、社会と連携しながら取り組みを進めて参ります。

2. 一般財団法人中央アジア高等教育奨学金財団の概要

財団名称：一般財団法人 中央アジア高等教育奨学金財団

代表理事：小見山 幸治（元参議院議員／公益財団法人国際人材交流支援機構理事長）

理 事：はが 弘明（株式会社デジタル・ナレッジ代表取締役社長）
片山 傳生（学校法人京都橘学園理事長）
佐伯 希彦（東邦電気産業株式会社会長）

監 事：中嶋 竜一（株式会社デジタル・ナレッジ管理本部本部長）

評 議 員：坂田 拓光（株式会社 KEI アドバンス取締役 兼 国際事業企画統括）
加藤 文彦（特定非営利活動法人日本ウズベキスタン協会会長）
重松 和英（特定非営利活動法人日本ウズベキスタン協会副会長）

事務局長：足立 好弘（学校法人京都橘学園法人事務局長）

設置年月：2024年9月18日

基本方針：

- ① 中央アジアからの留学生の就学環境等の改善を支援するための奨学金給付事業実施に向けて、準備活動を行う。
- ② 当法人が行う奨学金給付事業の普及を図るため、広報・啓発活動を行う。
- ③ 当法人の運営・管理について、コンプライアンス遵守に努める。

主な事業：

- ① 奨学金給付事業：奨学金の給付、広報活動等。
- ② キャリア支援事業：就業機会確保のため、インターンシップ受け入れ先の開拓等。
- ③ 法人運営・管理：寄付金の募集、コンプライアンス管理等。

3. 奨学金給付スキーム

給付額：年間14万円（総合心理学部総合心理学科 通信教育課程 後期授業料相当額）

募集人数：60名（1学年15名）

給付時期：2025年度より実施予定

4. 2024年度の事業活動内容

2024年度は、本法人設立および、2025年度以降の奨学金給付事業実施にむけた準備活動を行います。具体的には、奨学金への応募条件、応募方法、奨学金給付決定方法、給付額、給付期間、給付日、給付

方法および、受給条件など、給付者選定に必要な準備を進めます。

5. 今後の展望

留学生には、学位取得後、日本での就労をめざし、キャリアサポートをして参ります。一定期間日本において、就労経験を積んだ後は、自国へ戻り、各国の経済や産業の発展に寄与できるように支援をしていきたいと考えています。

京都橘大学は、第3次マスタープラン（中期事業計画）において、世界と協働できる人材の育成をめざし、海外大学との新しい連携や通信教育の活用による国際教育展開などを進めています。前例にとらわれず様々なチャレンジを通して、高等教育の国際的な発展への貢献とアジアを中心に若者たちが直接交流できる機会を創出するなど、多様な学びの場を提供していきたいと考えています。

6. 財団設立を受けて、大使および理事のコメント

代表理事：小見山 幸治（元参議院議員／公益財団法人国際人材交流支援機構理事長）

『このたび、中央アジアの留学生を支援するための奨学金財団を設立しました。本奨学金財団の設立を通じて、中央アジアの優秀な学生たちに高等教育の機会を提供できることを非常に嬉しく思います。』

私たちは、教育の機会を提供することが未来への投資であり、国境を超え若者が学び、成長するための支援を行うことで、将来のリーダーとして自国の発展にとどまらず、中央アジアとの架け橋となり、国際社会に貢献できる人材となることを期待しています。この活動をみなさまにご理解いただき、ご支援いただきますようよろしくお願いいたします。』

大使：ムクシクジャ アブドゥラフモノフ（駐日ウズベキスタン共和国大使）

『このたび、中央アジアの学生を対象にした奨学金財団を設立されたことを、心より感謝申し上げます。』

本奨学金制度は、ウズベキスタンの学生にとって新たな学びの機会にとどまらず、異なる文化や知識に触れることで、視野を広げ、国際社会での貢献の道を切り拓く第一歩となるでしょう。

関係者の方々のご支援とご協力に深く感謝するとともに、今後も、学生たちの成長と両国の友好関係の発展をお祈り申し上げます。』

理事：佐伯 希彦（東邦電気産業株式会社会長）

『このたび、中央アジアの大学生を支援する奨学金財団を設立できたことを大変嬉しく思います。ウズベキスタンは、近年、教育分野においても急速な発展を遂げています。本奨学金財団は、この発展を支えると同時に、ウズベキスタンおよび中央アジアの優秀な若者たちが今後、国際社会に貢献できるよう支援するものです。』

この取組みを通じて、中央アジアの学生が日本の教育や文化に触れ、国際的な学術交流を行うことで、持続可能な発展と平和の実現に向けた礎となることを願っております。日本とウズベキスタンの友好関係が一層発展するとともに、学習意欲溢れる人材育成に寄与していきたいと考えております。』

理事：はが 弘明（株式会社デジタル・ナレッジ代表取締役社長）

『この度、中央アジアの留学生を支援するために奨学金財団を設立することとなり、大変光栄に思います。弊社は1995年の創業より教育をデジタルで届けるeラーニング事業をすすめており、大学さまのeラーニングによる通信制設置をお手伝いしてまいりました。

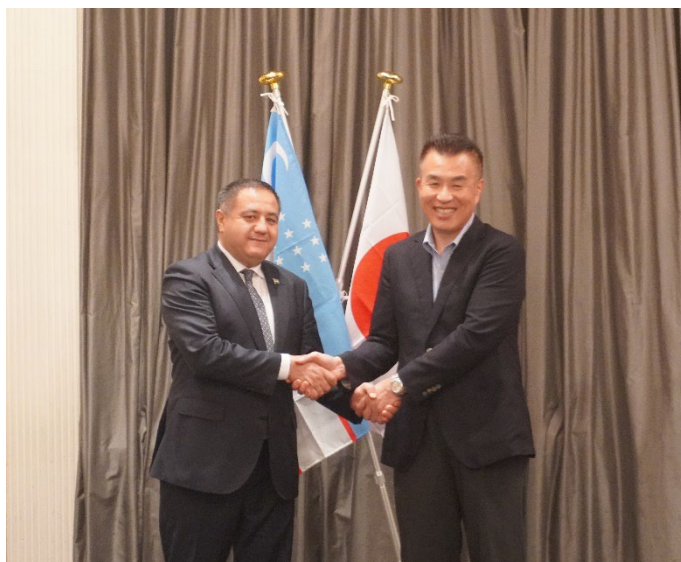
この度、弊社は2020年よりウズベキスタンの正規大学「Japan Digital University」に出資しております。異なる文化や国際的な視点を持つ人材の育成は、地域の発展のみならず、国際社会全体の発展にも寄与するものであると確信しております。奨学金財団の設立を通じて、これまで以上に教育と文化交流の促進を図り、ウズベキスタン及び中央アジア地域の未来を支える人材育成に尽力していく所存です。皆様のご支援とご理解を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。』

理事：片山 傳生（学校法人京都橘学園理事長）

『中央アジアの留学生を対象とした新たな奨学金財団の設立にあたり、大変光栄に思うとともに、身の引き締まるおもいにあります。

本学は第3次マスタープランの重点課題の一つに国際政策の実行を掲げております。中央アジアは歴史的にも文化的にも豊かな地域であります。経済的な制約や地域的な課題により、教育の機会が限られている学生も少なくありません。この奨学金財団は、そうした学生たちに学びの場を提供し、異なる背景を持つ学生が共に学び合うことで、これからの国際社会の発展に寄与できる人材となるよう支援して参ります。

最後に、この奨学金財団の設立にご支援いただいた皆様に心から感謝申し上げます。この取り組みが、未来を担う若者たちの夢の一助となることを願っております。』



アブドゥラフモノフ駐日ウズベキスタン共和国大使(左)

小見山 幸治(元参議院議員／公益財団法人国際人材交流支援機構理事長)(右)



中央アジア高等教育奨学金財団設立記念集合写真

以 上

参考：

■Japan Digital University (JDU)

株式会社デジタル・ナレッジの出資により、ウズベキスタンに 2020 年に設置された正規大学。ウズベキスタンで教育を受けながら、日本の提携大学の教育プログラムを受講し、卒業までに JDU と日本の提携大学の双方から学位を取得するダブル・ディグリー制度です。

<https://www.digital-knowledge.co.jp/solution/global/jdu/>

■京都橘大学と Japan Digital University (JDU) との協定概要

- ・デジタル・ナレッジがウズベキスタン国内に設置する JDU に所属する学生を対象として、本学の教育プログラムを提供し、日本での就業を目指す人材を育成することを目的とする。
- ・デジタル・ナレッジ、JDU および本学は、上記の目的を達成するため、ウズベキスタン国内における学生募集、円滑な履修の支援等において協力する。

※2023 年度入学者数：39 名、2024 年度入学者 28 名

●取材・内容についてのお問い合わせ先

京都橘大学広報課 担当：前川 TEL：075-574-4112 E-mail：pub@tachibana-u.ac.jp